

# この人に インタビュー

INTERVIEW



多治見税務連絡協議会 会長  
前畑株式会社 会長

坂崎 重雄 氏

前畑株式会社

本 社

〒507-0042 多治見市前畑町2-12

TEL 0572-24-1111

FAX 0572-22-0962

メールアドレス info@maebata.co.jp

坂崎 重雄 氏 プロフィール

生年月日 大正 11 年 1 月 3 日

血液型 O 型

家 族 妻、長男夫婦、孫 2 人

インタビュー

広報担当副会長	丸理印刷(株)	伊藤 忠一
広報委員長	尾濃化研工業(株)	尾崎 禎泰
広報副委員長	(有)マツイデンキ	松井 啓至
広報副委員長	リビング市原商事(有)	市原 崇光

伊藤：今日は、坂崎会長さんにインタビューさせていただきます。坂崎さんは、法人会の会長をされた大先輩です。歴史などいろいろお聞かせいただきたいと思えます。よろしくお願い致します。

坂崎：以前からインタビューの話があったのですが、会長を退任して久しく今更との思いで断っておりました。ところが広報委員長の松本信廣さんが何としても私のインタビューを残したいとのことで再度加藤専務より依頼があり、そして間もなく松本さんが急逝され、広報委員長の遺言と思って引き受けてほ

しいとのことで、本日みなさんにお越しいただきました。

昭和 29 年連合会結成、53 年組織変更、そして 57 年社団化

坂崎：私は 33 歳で多治見青年会議所を設立し、初代と 2 代理事長を引き受け、また多治見商工会議所の常議員にも就任していました。その当時、法人会は組織が複雑な団体でしたが、私自身、次第に法人会との関係を深めていくことになりました。昭和 29 年 10 月管内 11 の法人会を連合会に結成。その当時



坂崎会長とインタビューの方々

のコーナーは皆さんに毎回楽しみに読んでいただいております。

坂崎：私も拝見しておりますが、広報委員さんや事務局のお陰で大変立派な会報誌だといつも感心しています。

会報誌のタイトルは初刊号より私が筆書きしましたが、後任の籠橋久衛さん、加藤史朗さん、そして現会長の西川一雄さん、筆跡が皆よく似ていますね。(笑)

は多治見商工会議所の川出専務理事が事務局を担当していました。その後53年には連合会を一本化し、多治見法人会に組織を変更しました。初代の事務局長 多治見市役所OBの故硯見一夫さんがよくやってくれました。54年には青年部会が、58年には婦人部会（現在 女性部会）が発足しました。そして57年7月社団化をして、名実ともに社会から認められた公益法人として国税局より認可を受けました。

伊藤：法人会とのつきあいは大変長いですね。

坂崎：法人会の第3代会長として、昭和58年～平成9年の定年退任まで14年間担当しましたが、その間いろいろな出来事がございました。平成元年の消費税導入、2年にはバブル経済が崩壊、3年には最低資本金制度が導入されました。5年6月9日の皇太子様ご成婚の翌日に社団化10周年の記念式典を盛大に行いました。当時は名物専務といわれた故渡辺修さんでした。事務局も新築された多治見市産業文化センターへ移転致しました。多治見税務連絡協議会では税の広報看板を平成3年から順次管内に37本設置しました。これは横浜市で看板を目にし、是非この管内にもと提案しました。また、多治見優良申告法人会の組織も作り、公示法人として会を盛り上げ、41年間、ほとんど皆出席で平成11年度まで総会を開催しておりましたが、公示制度がなくなり、今ではなつかしい思い出でございます。

尾崎：法人会だよりは坂崎会長さんの発案で始まったことですね。年3回の発行で「この人にインタビュー」

### 事業継続の要は社員と社長の心の絆

松井：つづけて、会社のことをお伺いしたいと思います。事業継続の要はなんでしょうか。

坂崎：社員を大切にすることですね。給料の多い少ないは別で、社員に安心を与えるということが一番大事ですね。給料をたくさん払えば安心するというものでもないと思います。社員と社長との心の絆とも言えるでしょうか。最近では、社長に「俺の人生を任せる」という社員は少ないですが、40年、50年前には、そういう社員がいっぱいいました。

伊藤：すごい社員さんがみえたんですね。

坂崎：40年前は中学出で裸1つで小僧さんに来たわけです。倉庫の2階を改造して宿舍を造り、朝食は私の自宅で食べ、昼は自宅から食事を運び食べさせました。そういう時代に一緒に苦勞した社員が最後役員になりました。大学出の1号の社員は九州の島





坂崎会長・伊藤副会長

から出てきて、大学卒業後、45年間在籍し経理を担当してくれていましたが、役員にもなり、とても優秀な社員でした。

特に社員の心を大事にしました。また彼らは全員市内に自分の土地を買い、家を建てて住んでいますよ。当時200万円くらい金を貯め土地を買わせ、それからまた金を貯めさせ家を造り、残りを東濃信用金庫から会社の保証で借金して15年返済にしました。先輩がやっているからと後輩もあとに続きましたよ。前畑の社員はみんなそうした生活設計をしています。それが前畑の誇りです。

社内結婚が多くて、今までに80組くらい仲人をしました。今から考えるとその時代は経済も成長期で、質実剛健、質素儉約、もったいないという気持ちが社員たちにありました。中学を卒業して小僧さんで来て独立したいという子が10人のうち2～3人はいました。身体に気をつけてガンバレと送りだしたものです。

### 若い経営者には愛国心を！私の人生観は報恩感謝

**市原：**では、次世代を担う若い経営者に一言お願いします。

**坂崎：**若い経営者には僕らの言うことは半分くらいしか判らないかと思いますが、自分が犠牲になっても国を愛することができる人に、世の中自分ひとりで生きていけるとはダメで、社会保障や教育にしても、公共事業や防衛、治安にしても、これは全部税金で賄っているのですから、世の中に感謝するという愛国心を持ってもらいたいですね。

**伊藤：**今、モンスターペアレントという言葉がありますが、愛国心がなく自分の子供のことしか考えられないという親が多いということでしょうか。

**坂崎：**少しの税金を払って、公共サービスを受けるのは当たり前と思っているような人間を作ってきたから、アジアの国々から再び日本は尊敬されないようになってしまったんです。我々が軍隊に行った当時は、アジア諸国、シンガポール、マレーシアな

どは、日本に続け、見習えと第一に経済が優先でしたが、そういう時代がありました。ところが今の日本には見習う所がない。物づくりは素晴らしいが、精神的には、国を愛するということがまったく希薄になってしまったということですね。

次世代を担う若い経営者には、「もっと愛国心を持って、会社を、家族を愛せよ」ということを言いたいですね。

**柴田：**人生観または座右の銘などをお聞かせください。

**坂崎：**「報恩感謝」の念を持つと自分の心の安らぎになってくるんです。人よりたくさん儲けて、偉い人になってリーダーシップをとっていきたくて、多かれ少なかれ誰もが思うわけですが、それを表に出しては駄目なんです。私も常々自分の心にブレーキをかけて頑張っています。

座右の銘は「生涯現役」です。

**伊藤：**趣味や健康法がありましたら、お聞かせください。

**坂崎：**趣味は読書です。健康法は、88歳になったら普通なら家で横になってTVを観てるんですけど、僕は背広を着て規則正しく会社に出てきています。このことが心身の健康を保っているのかと思います。

**尾崎：**88歳という米寿ですね。おめでとうございます。

**坂崎：**ありがとうございます。8月8日に退職され

たOBの社員たちが米寿のお祝いをやってくれました。また、OBの女性たちから、「お世話になった会長さんの米寿のお祝いをやりたい」との申し出が続いており嬉しい次第です。「もう少し涼しくなっからにしてくれ」と頼みましたが、社員は本当に可愛いですね。

**伊藤：**坂崎さんのお話はいろいろの場で本当に感銘を受けています。「男の品格」という本があるんですが、まさに坂崎さんの生き方を感じさせます。それにとってもお洒落で誰かコーディネーターがいらっしゃるんですか。前にピンクのシャツを着てみえて「万年青年」だと思いました。

**坂崎：**褒めていただきましたが、話の内容はともかく声がよく通るのはこれも訓練なんです。大きな声で聞いている人にわかるように話さなければならない。戦争に行った時、原野で200人位の兵隊に訓示をするのに聞こえるように話さなければならないということで鍛えられました。4年間でしたが、その間無遅刻無欠勤でした。健康でなければ出来ないことです。親から丈夫な身体を貰ったお陰と感謝して

おります。

**市原：**最後に地域の活性化に必要なことなどお聞かせください。

**坂崎：**法人会は異業種の集まりですね。私も多くの企業の方々と知り合いました。全法連、東海法連、県連などの組織で交流の機会がありました。出席の方々はどなたも各地域の強力なリーダーばかりで、学ぶことも多く人脈も広がりました。役員さんが中心とはなりませんが、積極的にそんな場に出られ、法人会のためにもご自分のためにもプラスになるよう機会を活かしてほしいと思います。

そして、この地域の活性化のために強力なリーダーが出てきて欲しいと痛感し、また、期待しております。

**伊藤：**法人会発足当時のこと、人生観などたいへん興味深い話をいただき、ありがとうございます。法人会も公益法人制度改革で大きな分岐点を迎えておりますが、今後ともご指導よろしくお願い致します。これからもますますお元気でご活躍くださることを願っております。



前畑本社「器遊庵」にて